

第13回

静岡歴史教育研究会



歴史教育と近現代史

—戦争とナショナリズムの学び方・教え方—

報告者①: 山田 朗 (明治大学文学部)

第二次世界大戦の捉え方

—日本の戦争をわかりやすく教えるために—

報告者②: 江田 憲治 (京都大学人間・環境学研究所)

「抵抗」のナショナリズムと「大国」のナショナリズム

コメント 高校教員の経験者から

司 会: 戸部 健、岩井 淳 (静岡大学人文社会科学部)

今回の研究会は、「歴史教育と近現代史」という共通テーマを掲げ、授業の現場で教えるのが難しいと言われる「戦争とナショナリズム」を取り上げます。戦争は前近代からありましたが、国益を強く反映し、総力戦の形をとるのは近現代のことでした。ナショナリズムは、もちろん解放思想として機能することはありますが、同時に多くの人々を戦争に駆り立てる原動力になりました。

報告者のお一人、山田朗先生は、日本近現代の軍事史や政治史について幅広く研究されていますが、今回は、戦争体験者が圧倒的少数派となった現在、戦争非体験者(研究者・教育者)が次の世代に、日本の戦争をわかりやすく教えるための留意点を確認し、第二次世界大戦における日本の軍事的位置についての見方・枠組みを示していただきます。

江田憲治先生は、中国近現代史の専門家ですが、今回はアヘン戦争後の「ナショナリズム」の実態(あるいは矛盾の諸相)を、東京で生まれた革命団体・中国同盟会に即して、検討していただきます。お二人から、一国史に偏らず、世界史的な視野をもって「戦争とナショナリズム」を捉える契機となる報告をしていただき、参加者の皆さんとともに「戦争とナショナリズムの学び方・教え方」を考えることができれば幸いです。みなさん、ふるってご参加ください。

日時: 2017年8月10日(木) 14:00~18:00

会場: 静岡大学人文社会科学部A棟6F大会議室

http://www.shizuoka.ac.jp/access/map_shizuoka.html

入 場: 無 料

主 催: 静岡大学人文社会科学部学部長裁量経費「歴史教育の地域的基盤形成を促進する教材・教授方法の探究と高大連携の継続」、静岡歴史教育研究会

問合せ先: 岩井 淳 (静岡大学人文社会科学部) YQS02036@nifty.com